

店舗一覧

明石市中央部	本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
	二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	小天野支店	加東市天神492	0795(47)1011
神戸市東部	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
神戸市中央部	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上砥園町4-4	078(361)0411
神戸市北部	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
神戸市西部	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
西宮市	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
	西宮今津支店	西宮市今津出家町1-6	0798(31)2489

〈にっしん〉

2022年9月
仮決算から



彫画:伊藤 太一

We will make a fresh step everyday.



日新信用金庫



LINE公式アカウント

@nisshin-shinkin



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489

(受付時間)平日午前9時から午後5時まで

<https://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

VEGETABLE OIL INK 環境に配慮した植物油インキを使用しています。

日新信用金庫

The Nisshin shinkin bank

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。さて、世界の経済環境は昨年から今年にかけて大きく変化しました。コロナと対峙する時代から、コロナと折り合いをつけて共存する時代に入り、底堅い成長の局面に入りました。

そして、感染症により生じていたサプライチェーンの停滞による一次産品の価格上昇が、需要の回復による全般的で継続的な物価上昇に変わりました。

この物価上昇に対処すべく、わが国を除く主要先進国は金融引き締めへ転じており、その影響から円安を招いています。さらに、ウクライナ情勢などの地政学的リスクが大いなる不確実性として加わり、経済の下振れリスクとなっています。

わが国は低成長、金融緩和政策の継続といった、世界の経済環境とは異なる局面にある一方、世界的なインフレから、エネルギーや食料品、耐久財などの価格が上昇し、物価高騰という苦慮する問題が発生しています。

地域の担い手である中小企業や小規模事業者は、少子高齢化や後継者難、慢性的な人材不足といった構造的な課題を抱える中、コロナ禍における行動変化の対応やデジタル化の推進、脱炭素化に向けた対応などの課題が山積しています。

そうした中、2022年9月末において〈にっしん〉は、預金残高8,728億円、貸出金残高3,996億円となり、当期純利益はお陰さまをもちまして1,887百万円を計上することができました。心より御礼申し上げます。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.59%と十分な水準にあります。

仮決算の概況については、次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめておりますので、ご一読いただければ幸いです。

〈にっしん〉は2025年に明石信用金庫、三木信用金庫、神港信用金庫の3金庫合併から設立50周年を迎えます。「お客さま第一主義」を念頭に、地域になくてはならない金融機関となるよう努めてまいります。これからも、お客さまとのリレーションシップを追求し、地域に根ざした金融機関として、地域住民や中小企業が抱える課題の解決に全力を尽くし、地域社会の成長に貢献できるように一生懸命に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2022年11月

SDGsへの取り組み～「持続可能で豊かな地域の未来創り」の実現に向けて～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



● にっしん輝きメッセ



にっしん輝きメッセ2022を開催しました。
(神戸国際展示場 2022年9月)

● 各種セミナーの開催



さまざまな中小企業の支援機関と連携して、お客さまの経営に役立つ各種セミナーを開催しました。

● 「明石まちなか図書館」の設置



明石市と連携し市内全10店舗に「明石まちなか図書館」をオープンしました。どなたでも気軽に本に親しむ環境づくりの一助とし、地域のよりよいまちづくりに貢献しております。



(2022年4月 本店)

● 地域おうえん定期預金の発売

お預けいただいた定期預金の0.01%相当額を寄付し、子育て支援事業の運営に活用していただけます。

【明石市内の10店舗】
【神戸市内の17店舗】

取扱期間：
2022年4月12日～2022年6月30日
2022年9月5日～2022年10月31日



● 市民救命士講習会



2022年度新入職員が心肺蘇生法やAEDの取扱いなど、応急措置について指導を受けました。(2022年7月 本店)

板宿支店開店40周年感謝期間の開催

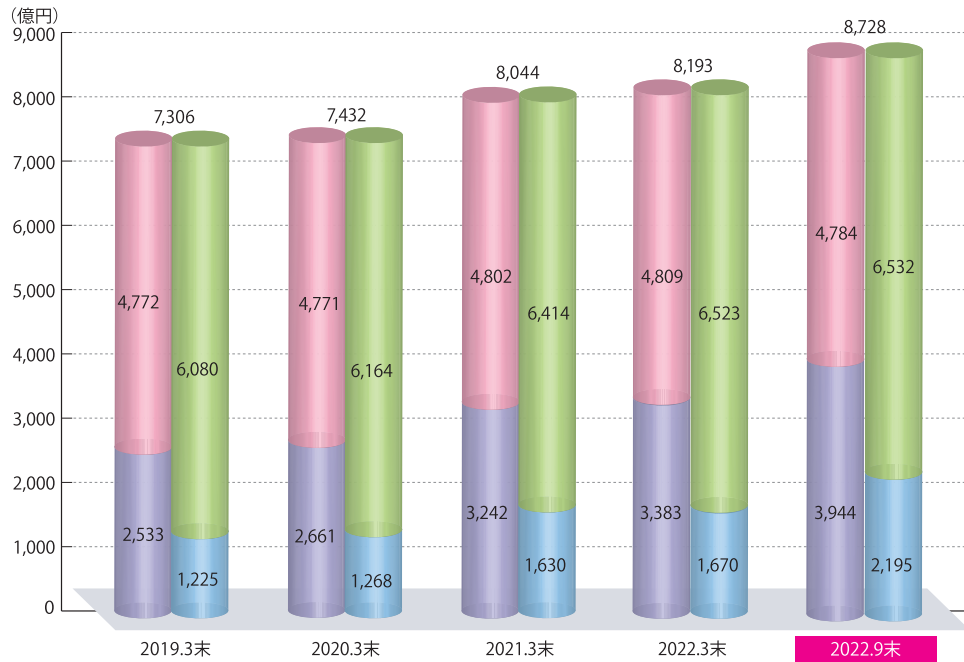


板宿支店は、地域の皆さまに支えられ開店40周年を迎えることができました。日頃の感謝を込めまして8月1日から5日まで「開店40周年感謝期間」として、たくさんのお客さまにご来店いただきました。



(2022年8月 板宿支店)

〈預金〉 預金 (定期性 流動性) (個人 法人)



【預金】

預金は、2022年3月末対比535億円増加し8,728億円となりました。地方公共団体等の預金は期中に預入され毎年3月末に引き出されるため、実際の増加額は105億円となります。

定期性預金は微減となり、流動性預金は大幅に増加となりました。これは、新たなお客さまが増えたことに加え、景気先行きの不透明感より消費の低迷による手持ち資金の増加や融資滞留金が増えたことが主な要因です。

今後もお客さまの様々なご要望やご意見にできる限りお応えし、皆さまに喜ばれるサービスを目指してまいります。

【貸出金】

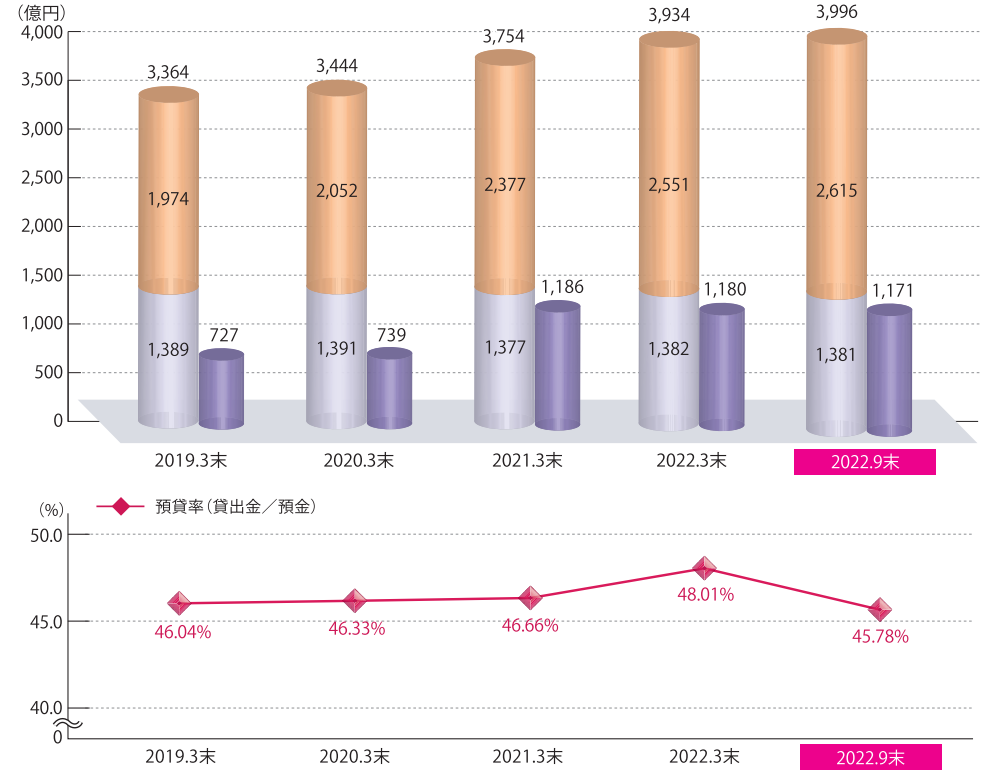
貸出金は、2022年3月末対比62億円増加し3,996億円となりました。これは、お客さまへの伴走支援により、資金繰り支援に積極的に取り組んだことが主な要因です。また、預貸率は2.23ポイント減少しました。これは預金の増加率が貸出金の増加率を上回ったためです。

今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取り組み、適切で円滑な資金提供に努めてまいります。

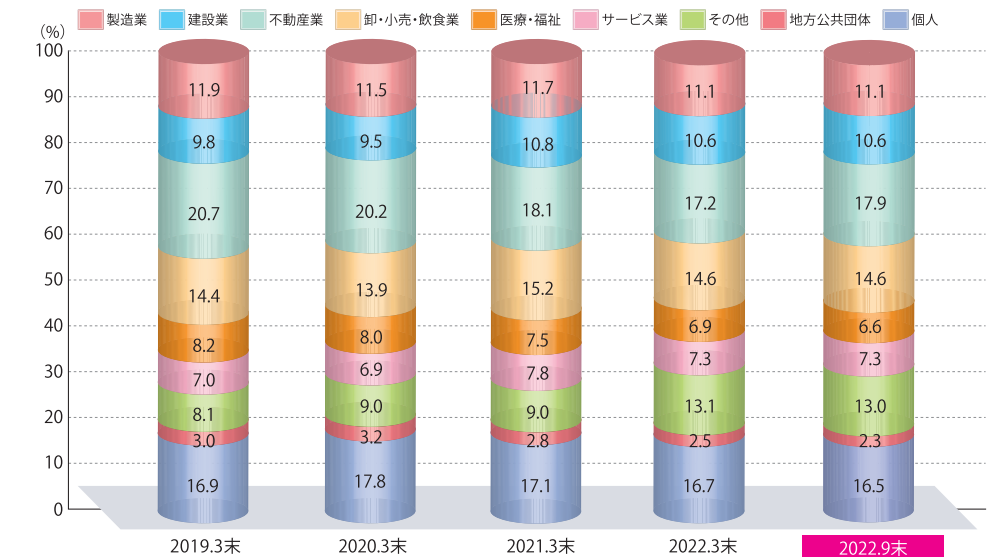
【業種別構成比】

貸出金の業種別構成比の推移をみると、2022年3月末と比較し、不動産業で0.7ポイント増加しました。医療・福祉で0.3ポイント、地方公共団体、個人で0.2ポイント、その他で0.1ポイント構成比は減少しています。

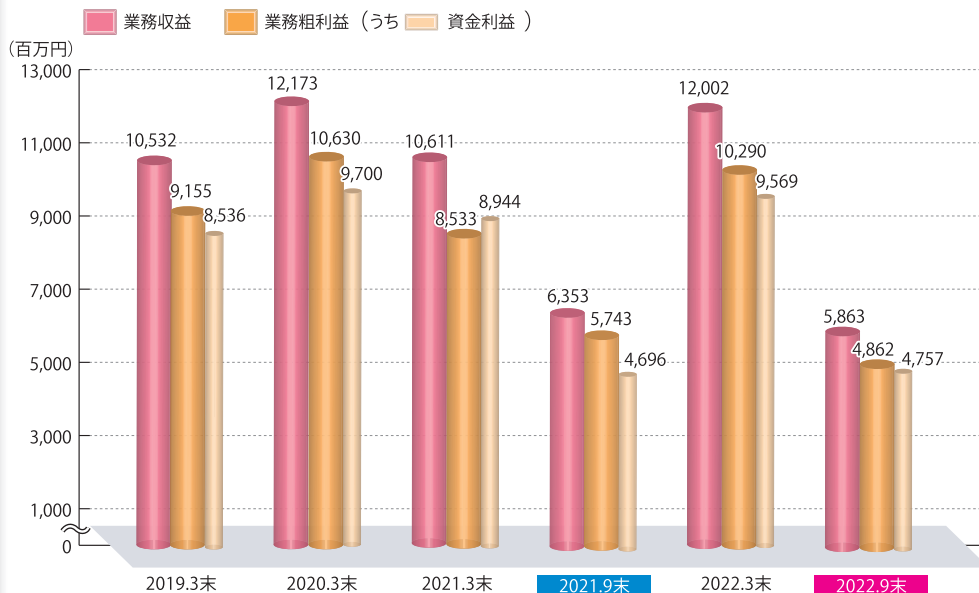
〈貸出金と預貸率〉 貸出金 (運転資金 設備資金) うち 保証協会保証付貸出



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉



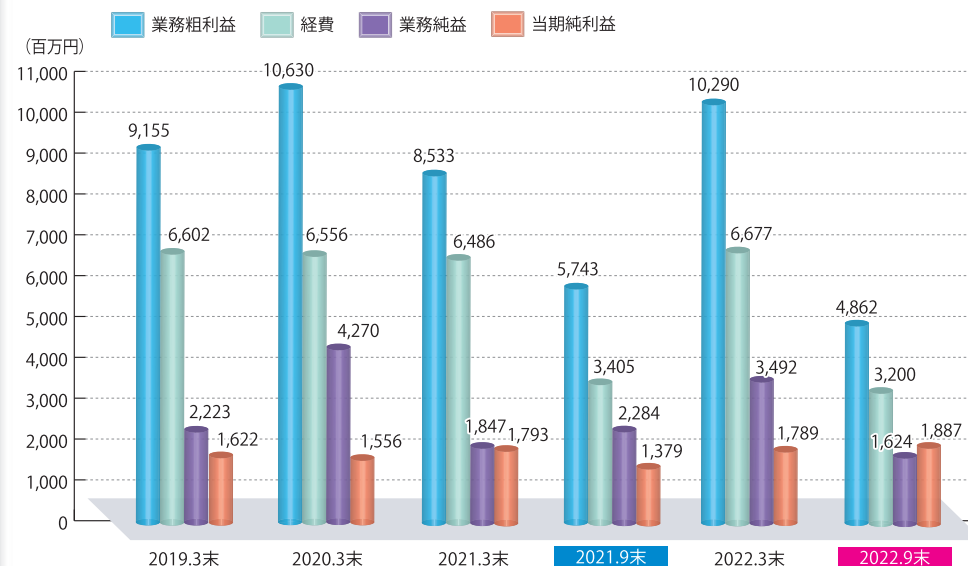
一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、貸出金利息収入が増加したものの、有価証券利息配当金収入や債券売却益が減少したことにより、前年同月に比べて489百万円の減収になりました。

業務粗利益(業務収益-預金利息等の原価)は、業務収益の減収や投資信託解約にかかる償還損の増加などにより、前年同月に比べて880百万円の減益となりました。

資金利益(貸出金と有価証券運用から発生する利益-預金支払利息)は、貸出金利息収入の増加により、前年同月に比べて60百万円の増益となりました。

〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期純利益〉

[参考] 業務粗利益 - (経費 + 一般貸倒引当金繰入額) = 業務純益

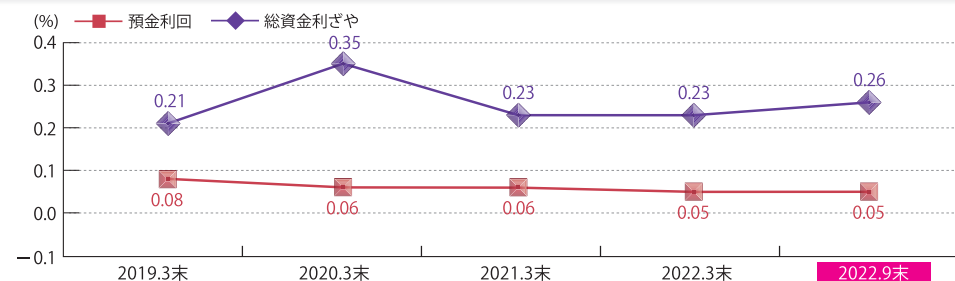
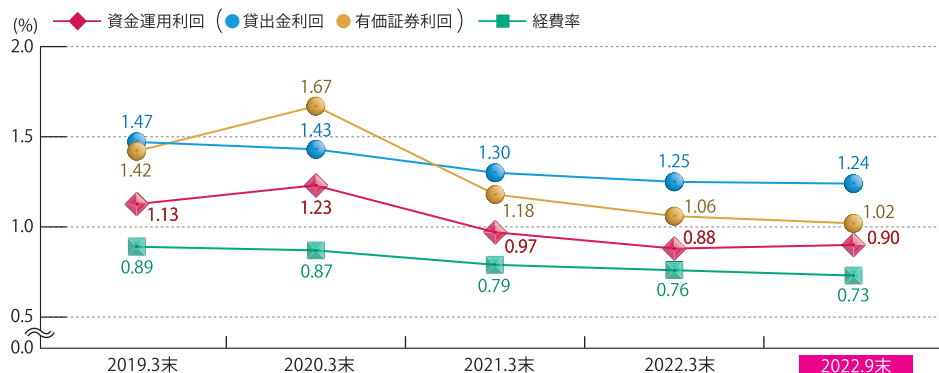


経費は物件費の削減に努め、前年同月に比べて205百万円減少の3,200百万円となりました。

業務純益は、経費が減少したものの業務粗利益の減益などにより、前年同月に比べて660百万円減少の1,624百万円となりました。

当期純利益は、株式等売却益の増加などにより前年同月に比べて508百万円増益の1,887百万円となりました。

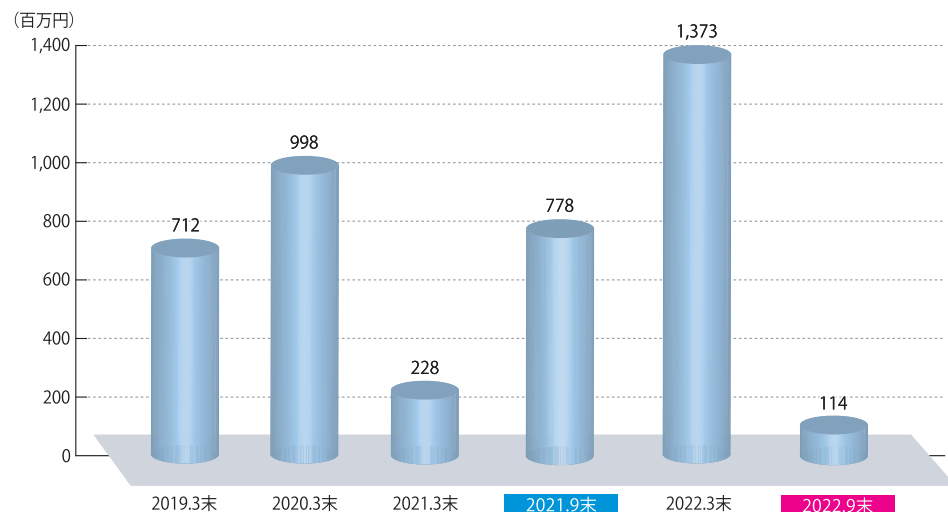
〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経费率、利ざや〉



資金運用利回は、貸出金利回や有価証券利回は低下したものの、有価証券に比べて利回の高い貸出金残高が増加したことから0.90%となりました。

総資金利ざやは、資金運用利回の改善と経费率の低下により0.26%になりました。これからも収益力の強化に努めてまいります。

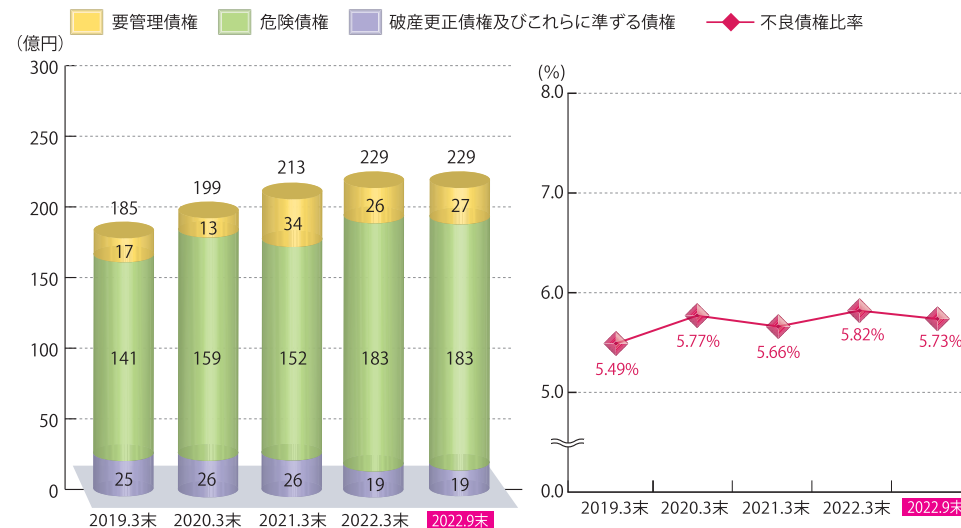
〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計額です。



2022年9月末の不良債権処理費用等は、114百万円となりました。大きな不良債権の発生がなく、前年同期対比で不良債権処理費用等は664百万円減少しています。

貸出債権の不良化防止に向けて今後も、経営改善支援や融資審査能力向上に努めると共に、将来のために引当も十分に行ってまいります。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



不良債権は、要管理債権、危険債権及び破産更生等債権に分類されます。

2022年9月末の不良債権残高は229億円となり、2022年3月末に比べて0.2億円の増加となり、不良債権比率は5.73%で、2022年3月末に比べて0.08ポイント低下しました。

事業性評価や外部支援等を活用して、お客さまの経営改善に一体となって取組み、不良債権の減少に努めてまいります。

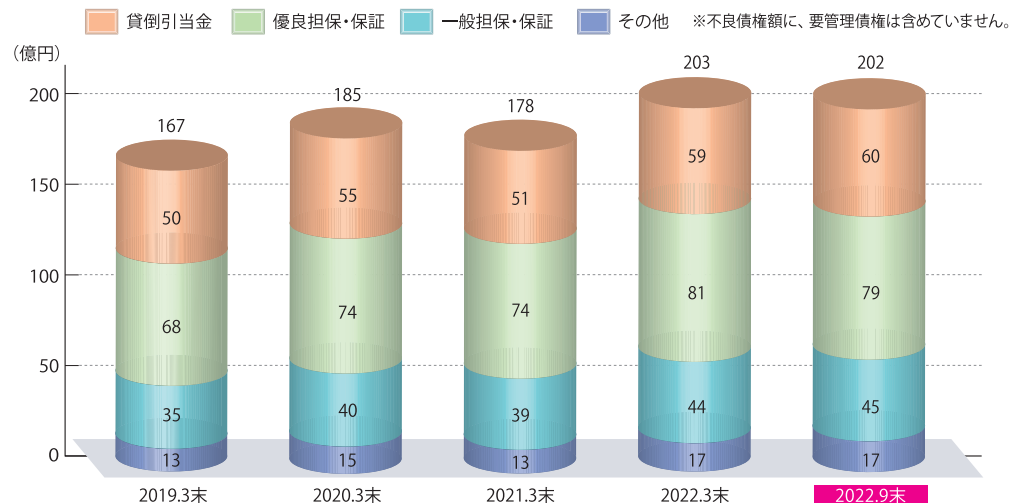
〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

2022年9月末の不良債権(要管理債権を除く)202億円の保全状況は右の通りです。

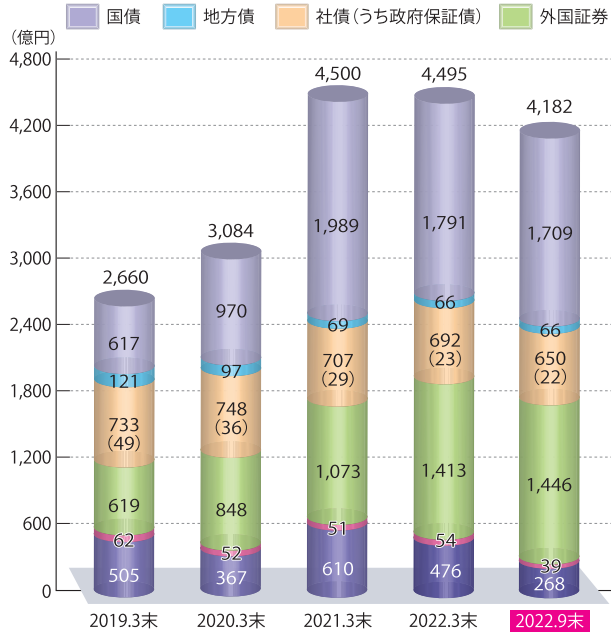
貸倒引当金は60億円計上しています。これは、会計上損失処理済となります。

優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている金額79億円、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている金額45億円、合わせて124億円については、回収が確実であると見込んでいる額です。

残りの17億円は、これまでの回収実績等から回収可能と見込まれる額です。



＜有価証券の種類別保有状況＞

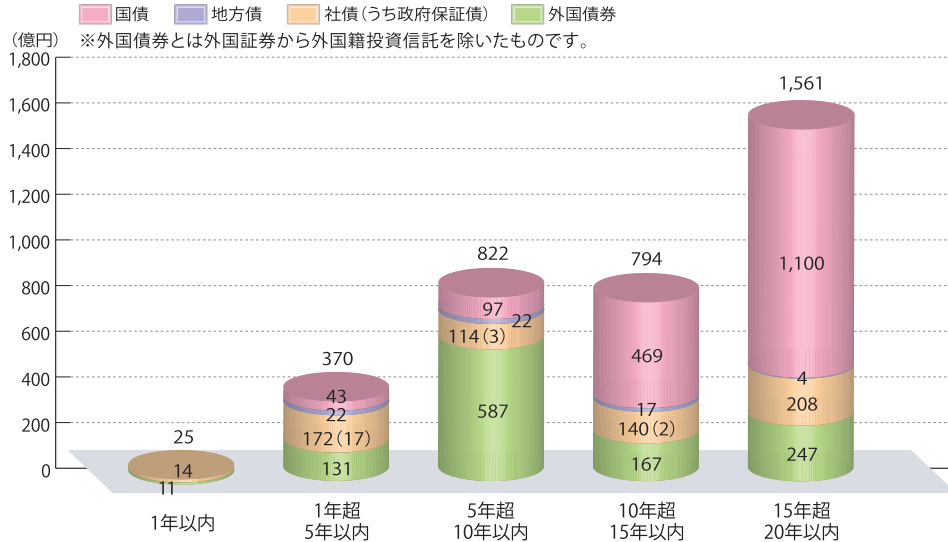


有価証券残高は2022年3月末に比べて313億円減少しました。

安全性を配慮して、国債を中心とした債券に投資しています。外国証券は全て円建てで為替変動により償還時に元本を毀損するものではありません。投資信託等は欧米先進国の国債を対象としたファンドを中心に分散投資していますが、欧米等の物価上昇を起因とした市場金利の上昇により債券価格が下落したことから一部売却しました。

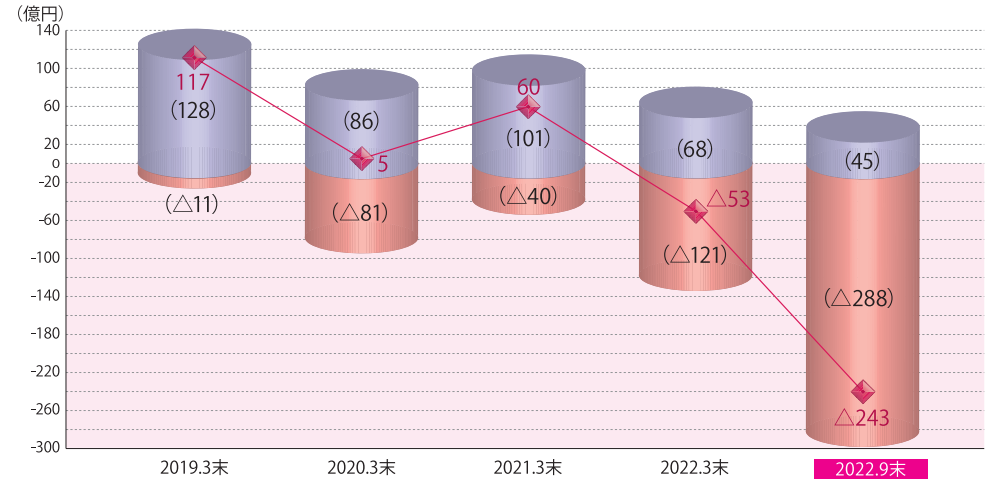
今後も金利リスク、為替リスク、価格変動リスクなどのリスク管理態勢の強化に努めていきます。

＜債券(償還までの期間別に見た残高)(2022年9月30日現在)＞

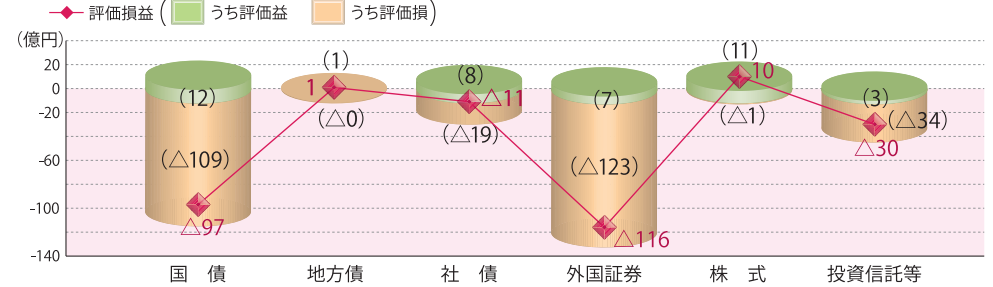


有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。期間10年以内の国債の利回りは低利であるため、期間10年超20年以上の国債、地方債、社債、外国債券にも投資しています。なお、期間20年超の債券への投資は行っていません。

＜有価証券の評価損益の推移＞



＜有価証券の種類別の評価損益(2022年9月30日現在)＞



2022年9月末の有価証券の評価益は45億円、評価損は288億円、有価証券全体で差引243億円の評価損となっています。評価損益は2022年3月末比で190億円の減少となりました。

評価損は主に国内外の市場金利上昇(下図参照)によるものです。有価証券のうち、満期償還のある債券の評価損は203億円です。

債券は投資先の倒産等がなければ額面全額が償還されるので、原則として満期償還時まで保有を継続する予定です。

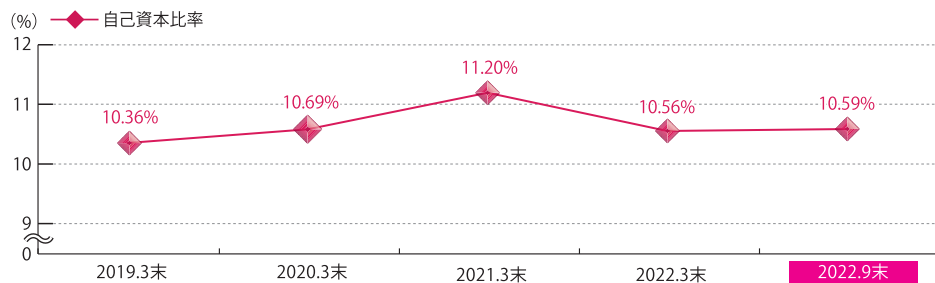
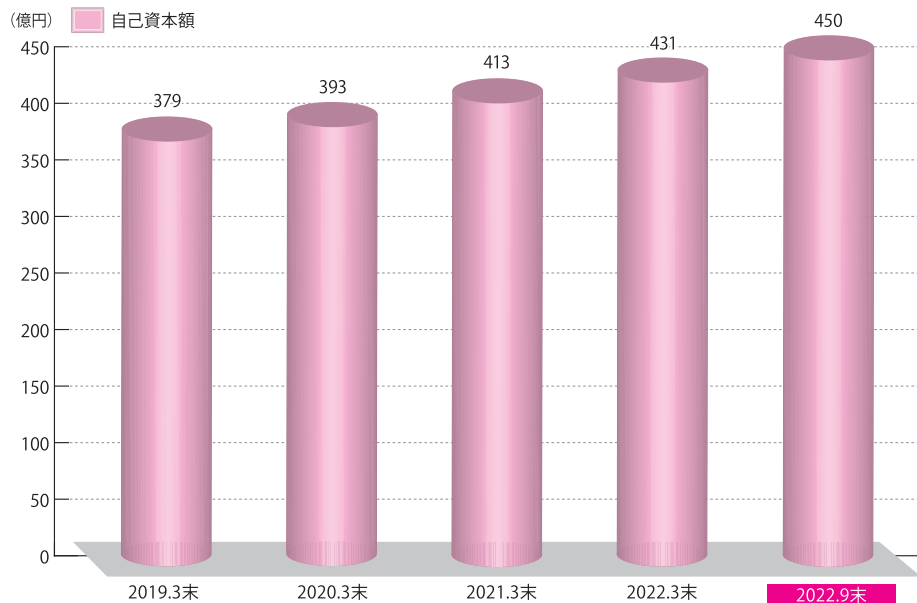
債券とは

債券は、資金を必要とする国や地方公共団体、会社などが資金を調達するために発行されます。一般的に満期償還時に額面全額が償還されることが約束されており、定期的に利息収入が得られることから比較的安定的な運用が可能です。満期償還前でも売却による換金が可能ですが、債券の価格は市場の状況により日々変動しますので、満期償還前に売却した場合は投資元本を割り込むことがあります。

市場金利の推移



〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



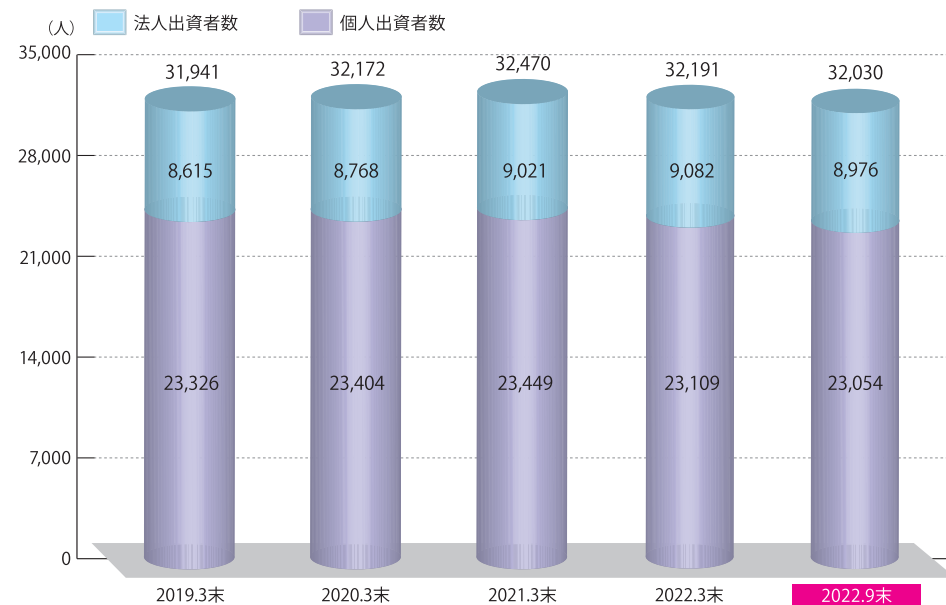
	2019.3末	2020.3末	2021.3末	2022.3末	2022.9末
リスクアセット (億円)	3,660	3,680	3,689	4,082	4,252

自己資本比率は、2022年9月末で10.59%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、貸出金や外国証券の増加などによりリスク・アセット等の合計額が169億円増加したものの、自己資本の額が18億円増加したことから、2022年3月末に比べて0.03ポイント向上しました。国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

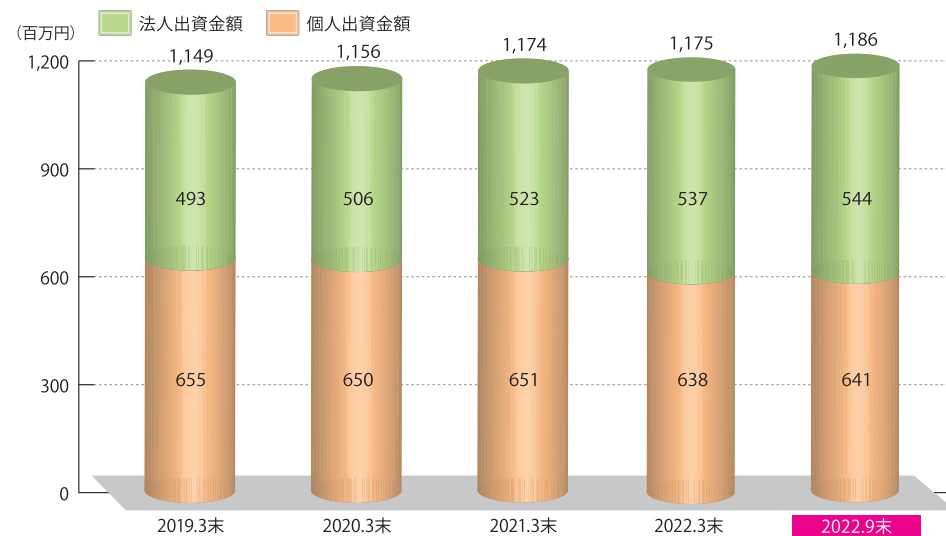
これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

〈会員数〉



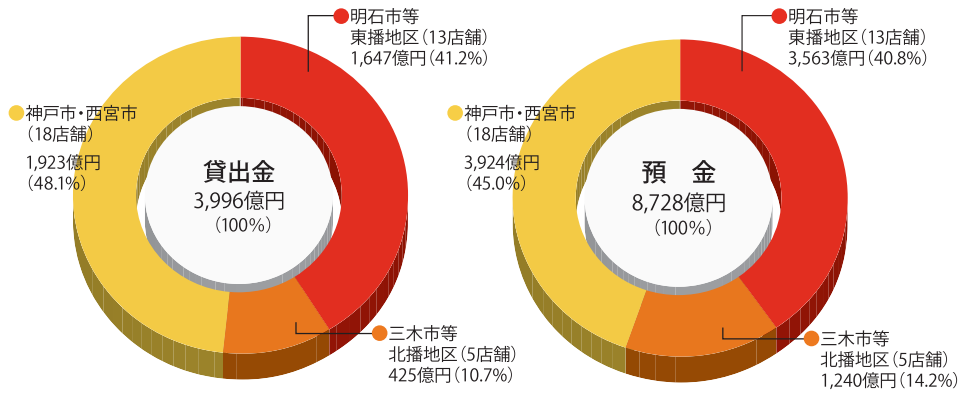
所在不明会員の除名および死亡等による法定脱退が多く、会員数は2022年3月末に比べて161人減少しました。

〈出資金額〉

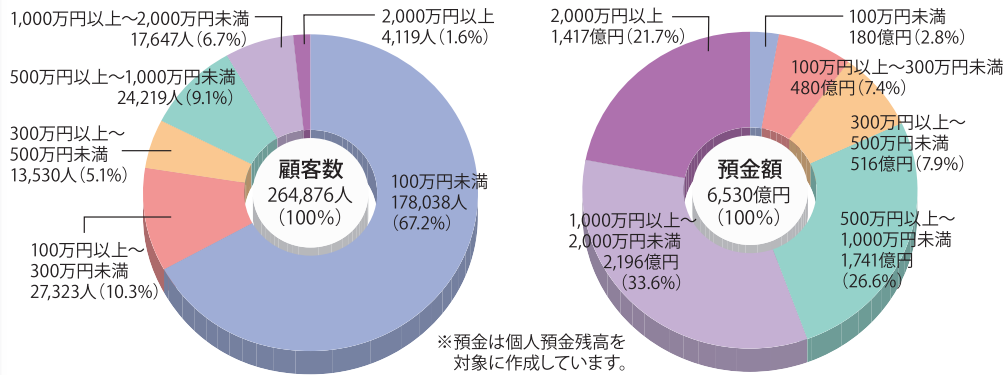


会員数は減少しましたが、新しい会員の皆さまの出資金額が増えたため、出資金額は増加しています。

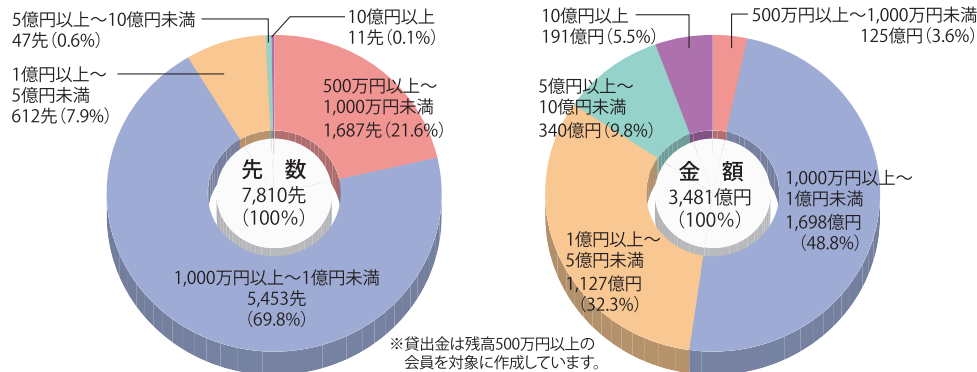
〈貸出金・預金の地域別構成〉 (2022年9月30日現在)



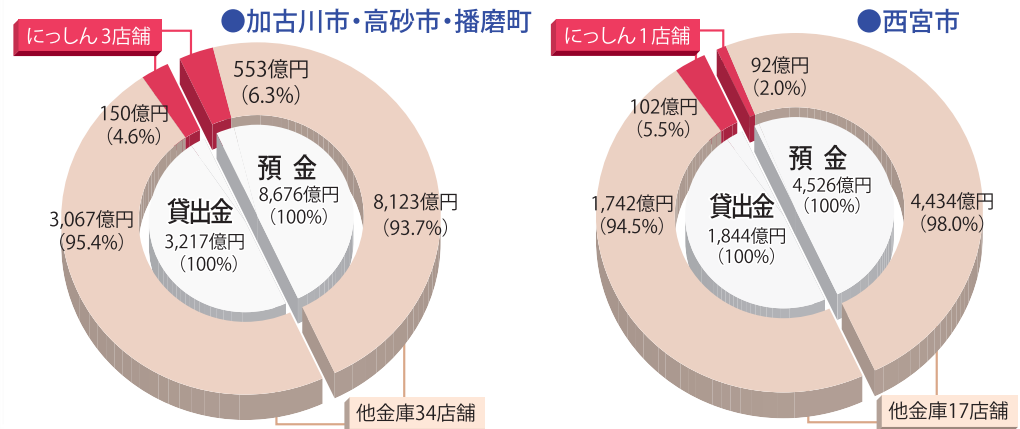
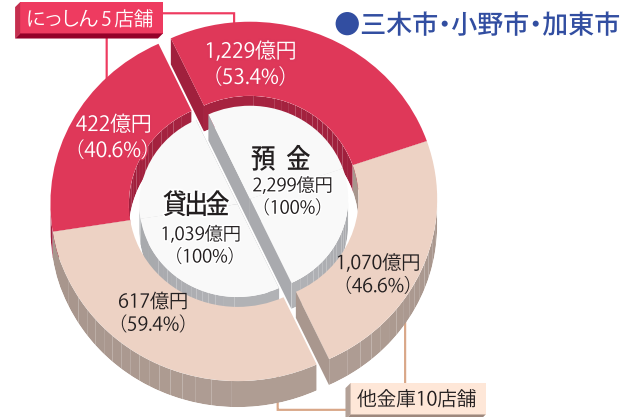
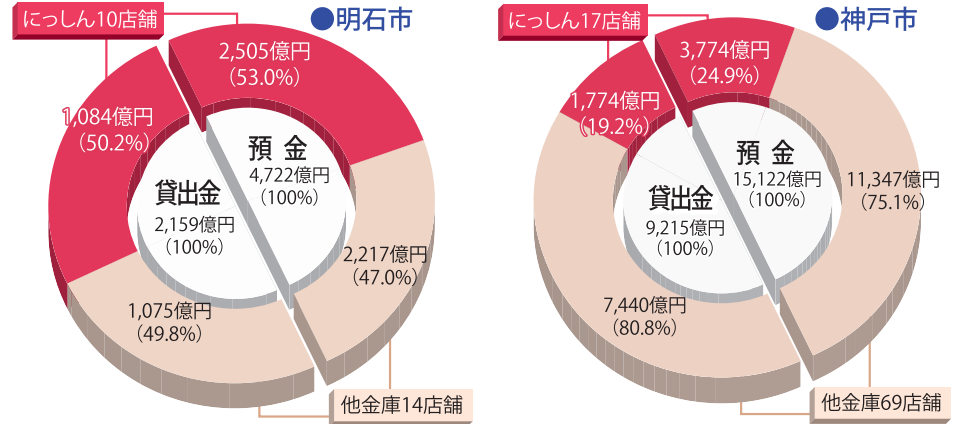
〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別にみた顧客数と預金額〉 (2022年9月30日現在)



〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別にみた先数と金額〉 (2022年9月30日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (2022年3月31日現在)



1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	2021年9月末	2022年9月末	増 減
現金・預け金	327,224	260,816	△ 66,408
コールローン	—	—	—
有価証券	453,708	418,212	△ 35,495
貸出金	390,489	399,634	9,144
事業性貸出金	315,786	324,481	8,695
貸倒引当金	△ 6,862	△ 7,183	△ 321
うち個別貸倒引当金	△ 5,844	△ 6,060	△ 215
資産の部合計	1,177,074	1,091,243	△ 85,831

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	2021年9月末	2022年9月末	増 減
預金・積金	877,763	872,862	△ 4,900
個人預金	648,541	653,287	4,746
借入金	245,900	186,700	△ 59,200
負債の部合計	1,129,664	1,064,477	△ 65,186
出資金	1,175	1,186	11
利益剰余金	40,867	43,118	2,251
その他有価証券評価差額金	5,367	△ 17,538	△ 22,906
純資産の部合計	47,410	26,766	△ 20,644
負債及び純資産の部	1,177,074	1,091,243	△ 85,831

※借入金の資金調達先はすべて日本銀行です。貸出増加支援資金供給や新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペレーションにかかる資金供給を利用したもので、利率はすべて0%です。

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項 目	2021年9月末 (2021年4月1日～9月30日)	2022年9月末 (2022年4月1日～9月30日)	増 減
業務粗利益……………②	5,743	4,862	△ 880
うち資金利益	4,696	4,757	60
うち役員取引等利益	146	131	△ 15
うちその他業務利益	900	△ 25	△ 925
一般貸倒引当金繰入額③	52	38	△ 14
経費……………④	3,405	3,200	△ 205
業務純益……………①	2,284	1,624	△ 660
実質業務純益……………⑤	2,337	1,662	△ 675
臨時損益……………⑦	△ 232	995	1,227
うち個別貸倒引当金繰入額	725	75	△ 649
うち株式関係損益	570	1,041	471
経常利益……………⑥	2,052	2,619	566
特別損益	0	0	△ 0
税引前当期純利益……………⑨	2,053	2,620	566
当期純利益……………⑧	1,379	1,887	508

■主な項目の計算方法

①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費

⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額

⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益

⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	2021年9月末		2022年9月末		残 高 増 減
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	43,905	11.2%	44,650	11.1%	745
農業・林業	45	0.0%	41	0.0%	△ 4
漁業	—	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—
建設業	41,039	10.5%	42,262	10.6%	1,223
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,281	0.3%	1,189	0.3%	△ 92
運輸業・郵便業	15,837	4.1%	15,490	3.9%	△ 347
卸売業・小売業	48,837	12.5%	50,021	12.5%	1,184
金融業・保険業	31,936	8.2%	35,133	8.8%	3,197
不動産業	66,571	17.0%	71,648	17.9%	5,077
物品賃貸業	1,857	0.5%	1,787	0.4%	△ 70
学術研究・専門・技術サービス業	2,957	0.8%	3,012	0.8%	55
宿泊業	2,906	0.7%	3,175	0.8%	269
飲食業	9,174	2.3%	8,518	2.1%	△ 656
生活関連サービス業・娯楽業	5,488	1.4%	5,126	1.3%	△ 362
教育・学習支援業	525	0.1%	600	0.2%	75
医療・福祉	27,668	7.1%	26,309	6.6%	△ 1,359
その他のサービス	15,753	4.0%	15,512	3.9%	△ 241
小 計	315,786	80.9%	324,481	81.2%	8,695
地方公共団体	9,453	2.4%	9,336	2.3%	△ 117
個人(住宅・消費・納税資金等)	65,249	16.7%	65,816	16.5%	567
合 計	390,489	100.0%	399,634	100.0%	9,145

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	2021年9月末				2022年9月末			
	時価	評価損益	うち益	うち損	時価	評価損益	うち益	うち損
その他有価証券	453,708	7,435	10,125	2,690	418,212	△ 24,326	4,511	28,837
国 債	218,258	1,794	2,548	754	170,940	△ 9,705	1,274	10,979
地方債	6,768	249	249	—	6,690	122	135	12
社 債	71,124	1,983	2,248	265	65,086	△ 1,125	806	1,932
うち 政府保証債	2,490	46	46	0	2,280	24	26	2
うち 公社公団債	6,124	521	521	—	5,928	354	354	—
うち 金融債	—	—	—	—	—	—	—	—
うち 事業債	62,509	1,415	1,680	264	56,877	△ 1,504	426	1,930
外国証券	101,801	1,407	2,328	920	144,638	△ 11,635	756	12,391
株 式	5,169	1,269	1,328	59	3,994	1,035	1,145	110
うち子会社・関連会社株式	149	—	—	—	149	—	—	—
投資信託	50,521	711	1,402	690	26,792	△ 3,041	369	3,411
その他	64	19	19	—	68	24	24	—

* 評価損益は、9月末の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

* 時価は9月末の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	2021年9月末	2022年9月末
業 務 純 益	2,284	1,624
経 常 利 益	2,052	2,619
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	1,449 (1,057)	1,706 (1,633)
当 期 純 利 益	1,379	1,887

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

項 目	2021年9月末	2022年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	42,042	44,304
うち出資金及び資本剰余金の額	1,175	1,186
うち利益剰余金の額	40,867	43,118
うち外部流出予定額(△)	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	1,064	1,179
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	1,064	1,179
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	43,107	45,484
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	373	430
自己資本の額(C-D) …… (E)	42,734	45,053
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	379,445	425,263
単体自己資本比率(E)/(F)	11.26%	10.59%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、「(にっしん)」は国内基準を採用しています。

自己資本の質の向上を図るため、2014年3月のパーゼルIII適用により、これまでの補完的資本とされていた劣後債や劣後ローン等を外し、出資金、利益剰余金、一般貸倒引当金などの合計から調整項目を控除したものが「コア資本」と定義されました。

■本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■本誌に掲載している計数については、会計監査人による監査を受けていません。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	2021年9月末	2022年9月末
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	42,042	44,304
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,175	1,186
うち、利益剰余金の額	40,867	43,118
うち、外部流出予定額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,064	1,179
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,064	1,179
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	43,107	45,484
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	47	50
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	47	50
前払年費費用の額	325	380
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	373	430
自己資本		
自己資本の額(イ)-(ロ)=(ハ)	42,734	45,053
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	361,673	406,818
資産(オン・バランス)項目	323,337	357,405
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 2,925	△ 1,425
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 2,925	△ 1,425
オフ・バランス取引等項目	38,128	49,049
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	207	362
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	17,772	18,445
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	379,445	425,263
自己資本比率((ハ)/(ニ))	11.26%	10.59%

●オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)×15% ÷ 8%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数

(注)
1. 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、「(にっしん)」は国内基準を採用しています。
2. オペレーショナル・リスクは基礎的手法を採用しています。

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	2021年9月末	2022年9月期(A)	前年同期比
	債権額	債権額	前年同期比
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	2,929	1,942	△ 987
危 険 債 権	17,448	18,345	897
要 管 理 債 権	3,893	2,706	△ 1,187
不良債権合計	24,271	22,994	△ 1,277
正 常 債 権	367,494	377,684	10,190
合 計	391,766	400,679	8,913
不良債権比率	6.195%	5.739%	-0.456%

保全状況(2022年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額(B)	担保・保証のない部分(C)=(A)-(B)	引当額(D)	(C)に対する引当率(D)/(C)	保金額(E)=(B)+(D)	保全率(E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,116	826	826	100.00%	1,942	100.00%
危 険 債 権	11,367	6,978	5,233	74.99%	16,601	90.49%
要 管 理 債 権	1,027	1,678	382	22.77%	1,410	52.11%
不良債権合計	13,511	9,483	6,442	67.93%	19,953	86.77%

■本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■本誌に掲載している計数については、会計監査人による監査を受けていません。